

私 の 真 相 心 裏

日本深層心理研究会（JDP）との出会いは平成7年に遡る。この17年間のことを分かり易くお話するためには、私の略歴の紹介から始めることが必要と感じている。各人各様の歴史があるのは当然であるが、過去の人生を振り返って、「色々な経験」を経てきたことに我ながら驚いている。

【子どもの頃】

子どもの頃から読書が好きで、小学生頃から自宅近くの図書館によく通っていた。面白そうな本を見つると「貸出」手続きして自宅で読んでいた。中学生の頃「非行の研究」の本を読んでいて、内容が難しいので「担任」の先生に質問に行ったら、担任が驚き「これは学校の先生用の本だ。」として取り上げられたが、数日後に返してもらった。その本の内容を要約すると「非行防止の要点は、両親による適切な躾と愛情、家族の結びつきである。」との結論であった。その後購入して蔵書となっている。

【学生の頃】

高校の進路指導で、「文系でも理系でも良いので好きな道に進め。」と言われ、理系の大学に進学した。多くの講座の中で一際記憶に残っている科目として「人間関係管理論」というのがあった。当時、我が国の産業界では、生産設備や社屋への投資が盛んに行われ、所謂「最新設備の立派な会社」を売りにしている企業が多かった。しかし、産業カウンセラーとしても有名な担当教授は、「感情の動物である社員間の人間関係の改善に配慮することが最も大切なことだ。」と断言された。ー ピグマリオンマインド、カウンセリングマインドの考え方に通ずる内容であった。

【社会人になって】

就活は今と違ってのんびりした時代で、卒検の教授や先輩とも相談して色々考えた末、技術系に決めた。就職して数年後に東京の本社勤務となった。仕事のことも一通り習得した頃、「大学等で興味のある学科を勉強できる。」ことを知った。

その頃、私は「催眠」に関心を持ち、大正時代から催眠の研究指導をしていたという会の通信教育を受けていた。しかし仕事のためスクーリングを受ける時間がなかなか取れず困っていた。また、当時は「企業カウンセリング」の黎明期で関心も強かったので、迷わず「心理・教育部門」に応募した。催眠の通信教育も終了し卒業証書もいただいたが、その会は数年後に無くなっていた。

【東京から名古屋への頃】

高度経済成長期が進み多忙な日々が続いたが、自らのストレスコントロールに励んだ。教科書等の出版社が主催する各種のセミナー、学会主催のイベント等に毎回参加していたが、いずれも当時は東京での開催が殆どであり、週末の気分転換に役立ち且つ勉強になった。その後、諸般の事情により名古屋に転勤したが、その結果、毎月のように上京することとなった。

ある時、「名古屋勤務となったので地元で活動している団体等があれば知りたい。」と申し出たところ、出版社の方から名古屋の取引先である「名教書の太田豊社長」をご紹介いただいた。

太田社長から「名古屋に深層心理を研究している組織があり、そこは東京の組織の支部で、教員を対象に学校で活用できる高度な研究をしている・・・云々」で、私の経歴や所属学会等を聞かれ、「深層心理西日本研究会」（西日本研）を紹介いただいた。

【西日本研究会からJDPへ】

その後、西日本研の高田事務局長から、フォローアップ研究会開催のお知らせが届き、平成7年11月3日に市政資料館の研究会に初参加させていただいた。

高田事務局長から紹介され、佐藤会長から参加のお誘いをいただいた。会員数約30名の「教員の会」で、深層心理に関する研究・研修活動を行い学校教育に活用されているとのお話であった。入会するには役員会の承認が必要とのことで、まさに「深層心理のプロ集団」と理解した。経験交流、実技演習、自律訓練法等、充実した一日となった。以来、フォローアップ研究会にはほぼ毎回参加させていただいた。

当時、市民活動団体や学会関係のお役を幾つか担っていたこと等から、夏期セミナーの時期は容易に都合が付かず不参加が続いた。諸々調整の結果、平成11年8月の深層心理研究会（東京）及び心理教育セミナー（伊勢）に参加した。心理教育セミナーでは早速講師も仰せ付きり良い勉強の機会となった。

また、この年には、山口会長の助言により、会の名称が「日本深層心理研究会」、英文略称「JDP《Japan Depth Psychology》」と改称され、グローバルなネーミングに大いに感動した。

心理教育セミナーは平成15年まで宿泊形式で伊勢市に於いて開催され、多くの先生方が参加され盛会であったが、私にとっては別の意味で有意義な勉強の機会となった。当時カウンセリングを勉強していたところ、宿泊施設で毎回ご一緒させていただいた杉浦副会長がこの道の大先輩であることを知った。また、深層心理技法に関しても話が弾んだ。

杉浦先生から毎回の個人教授を受けられたことにあらためて感謝した。

【NPO法人化以降】

深層心理研究会（東京）は平成15年3月を以て活動を終了し、同年。会がNPO法人化され活動を継承することとなった。夏期セミナーとして「深層心理士養成セミナー」が新たにスタートし、従来からの「心理教育セミナー」に加わり、いずれも盛況であった。

翌平成16年から、深層心理士養成セミナーの講師も仰せ付きり、また、心理教育セミナーは名古屋での開催となった。二本立ての夏期セミナーは共に盛会であった。ところが平成20年に心理教育セミナーの参加者が激減し中止のやむなきに至る事態が発生した。

公的な教員研修制度が充実し、民間のセミナーへの魅力が低減したことが要因とのことであった。会ではNPO法人化以降、教育関係者だけでなく、一般市民や医療・福祉の分野等への活動の拡大に努めていたが、これらの関係者の参加は低調であった。

【いきいき心理セミナー時代へ】

過去の反省から、一般市民や医療・福祉関係者等の皆さんが、より参加し易いセミナーを目指すことが検討され、心身の健康増進や介護法等、身近に活用できる内容を追加した「いきいき心理セミナー」が、装いも新たに平成21年7月末にスタートした。三日間で延べ80名の参加があった。

この教訓を生かし、翌年の平成22年からは年間3回開催された。内容では、古武術に学ぶ介護法・操体法等、「心身の健康増進」に関する内容が一層充実された。

今回、50周年を迎えるにあたり、私の「心裏」の懐古録を要約してみた。時代と共に市民のニーズの変遷を垣間見ることが少しはできたように思う。会の今後の一層の発展に期待したい。

最後に、本文中の、太田豊社長及び杉浦副会長は故人となられた。お二方のご冥福を祈る。